

技術情報

JA全農やまぐち
TAC・営農推進課(083-988-0681)
平成25年7月5日発行
第170号

I 平成25年度 第2回 水稻生育診断情報

山口県農林総合技術センターからの水稻生育・栽培管理速報(No2)が出されました。技術資料として紹介します、水稻栽培の管理指導にご活用ください。

水稻生育・栽培管理技術資料 (No. 2)

平成25年7月3日
山口県農林総合技術センター技術指導室

1 気象概況

- 5月27日、平年より9日早く入梅。5月28日には山口市で83mmのまとまった雨を観測したが、山間部、日本海側での降水量は少なかった。
- 梅雨入り後、6月上旬までは平年並みの気温で推移したが、6月中旬から高温少雨の天候となった。特に最低気温の上昇が顕著であり、6月中旬の最低気温は山口市及び山口市徳佐ともに過去10年間で最も高かった。また、降水量が少ない割に日照時間は平年並み～少なめで推移した。
- 6月19日～20日にかけて台風4号の接近により、各地で時間雨量20ミリを超える激しい雨を観測した。特に日本海側の雨量が多く、萩市須佐では24時間の雨量が300mmをこえた。
- 6月下旬の気温は、平年並み～やや低温で推移し、降水量も平年並みであったが、日照時間は概して短く、6月1か月間の日照時間は平年の78%にとどまった。

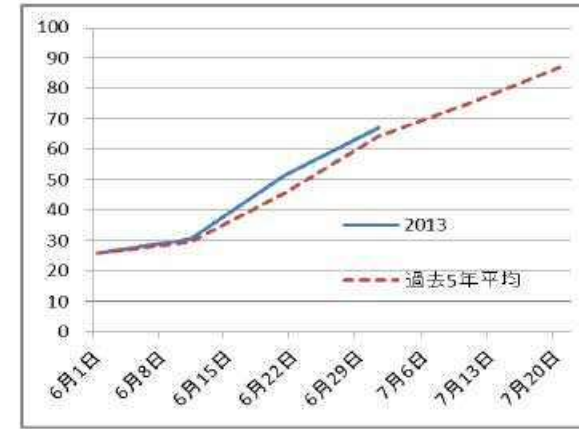
2 生育概況

水稻の生育状況(平成25年7月1日現在)

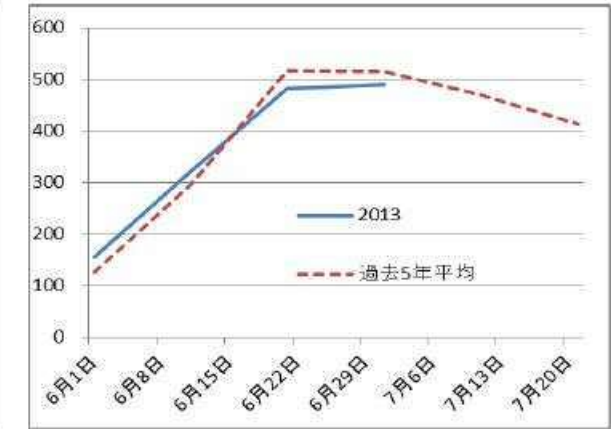
区分	品種	移植期	草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉齢(L)		葉色			
			比	差	比	差	比	差	比	差		
奨励品種決定調査	コシヒカリ		77	108%	6	607	97%	▲22	10.5	0.2	4.8	0.2
	ひとめぼれ	5月15日	73	112%	8	615	98%	▲10	10.4	▲0.1	4.7	0.0
	晴るる		74	110%	7	623	96%	▲24	10.4	0.1	4.7	0.1
	きぬむすめ	6月10日	36	109%	3	219	98%	▲4	7.3	0.3	4.1	▲0.3
定点基準ほ	ヒノヒカリ		35	116%	5	260	105%	13	7.6	0.5	4.2	▲0.3
	ひとめぼれ		47	96%	▲2	402	78%	▲111	9.7	0.2	4.5	0.1
	コシヒカリ	5月29日	52	101%	1	428	85%	▲75	9.6	0.4	4.4	0.2
	きぬむすめ		47	97%	▲2	464	98%	▲8	9.6	0.3	4.3	0.5
農林事務所農業部調査ほ場	ヒノヒカリ	6月18日	24	96%	▲1	75	55%	▲61	5.3	▲0.5	4.1	0.1
	コシヒカリ	5月15日	63	107%	4	407	92%	▲33	10.5	0.3	4.5	0.1
	ひとめぼれ	5月20日	59	111%	6	394	105%	19	10.0	0.4	4.6	0.1
	晴るる	5月21日	56	101%	0	308	83%	▲64	9.4	▲0.1	4.4	▲0.0
	きぬむすめ	5月29日	56	107%	4	379	89%	▲45	9.7	0.5	4.5	▲0.0
	ヒノヒカリ6月上中	6月4日	37	100%	0	261	91%	▲26	8.1	0.0	4.2	▲0.3
ヒノヒカリ6月下		18	91%	▲2	88	96%	▲4	3.9	▲0.1	3.1	▲0.6	

※ 比・差は過去5年平均との比較(定点基準ほは過去7年との比較)

(1) コシヒカリ (5月上中旬植え)



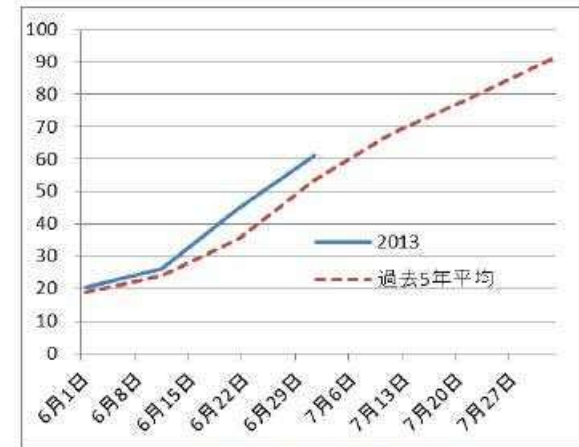
コシヒカリ草丈(萩市吉部)



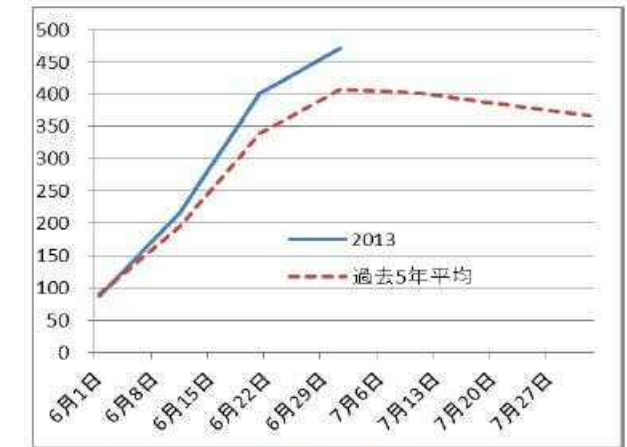
コシヒカリm²当茎数(萩市吉部)

- 7月1日時点の葉齢は平均10.5葉であり、平年を0.2～0.3葉程度上回っている。
- 生育ステージは最高分けつ期に入っていると考えられ、茎数は平年を下回っている。
- 草丈は平年より4cm程度長く長草傾向であるが、平年値との差は縮小している。
- 葉色は、平年よりやや濃く推移している。

(2) ひとめぼれ (5月中下旬植え)



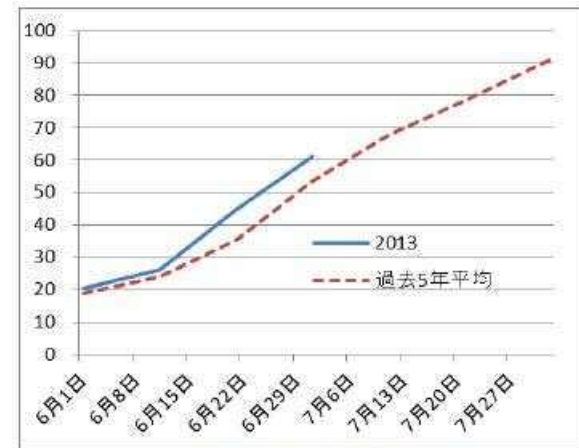
ひとめぼれ草丈(周南市須々万)



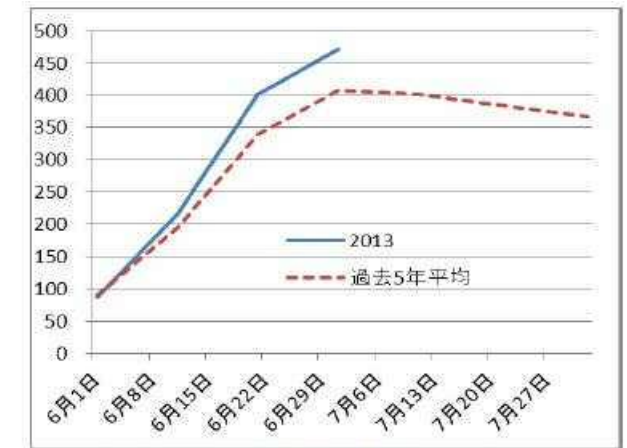
ひとめぼれm²当茎数(周南市須々万)

- 7月1日時点での葉齢は平年を0.4葉程度上回っている。
- 生育ステージは、ほぼ最高分けつ期に差し掛かっていると考えられ、茎数は5月中旬植えて平年より多く、5月下旬植えては平年並み～やや少ない。
- 草丈は平年より、4～9センチ程度長い。

(3) 晴るる (5月下旬植え)



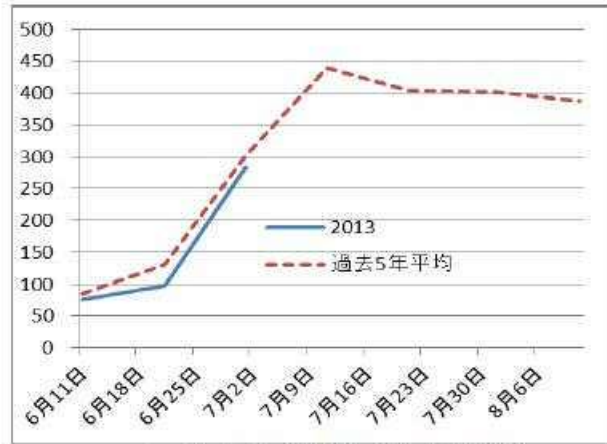
ひとめぼれ草丈(周南市須々万)



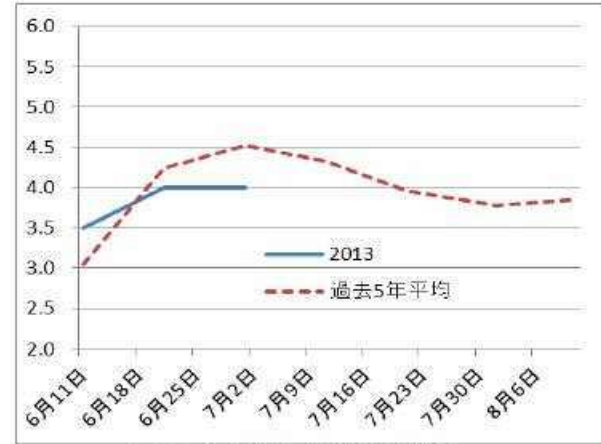
ひとめぼれm²当茎数(周南市須々万)

- 7月1日時点で、葉齢はほぼ平年並み。
- 草丈は平年並みから2cm程度長い。
- 茎数は平年に比べて少なく推移している。

- (4) きぬむすめ（5月下旬～6月上旬植え）
- 7月1日時点での葉齢は、平年を0.3葉程度上回っている。
 - 草丈は平年よりやや長く、茎数は平年よりやや少なく推移している。
 - 葉色は平年並み～やや濃い。
- (5) ヒノヒカリ（6月上旬植え）



ヒノヒカリ m²当茎数（光市小周防）



ヒノヒカリ葉色（光市小周防）

- 7月1日時点での葉齢は平年並み～0.5葉程度上回っている。
 - 草丈は平年並みからやや長い。
 - 茎数の増加はやや遅く、平年並みからやや少ない。
- (6) ヒノヒカリ（6月中下旬植え）
- 葉齢は平年より0.1～0.5葉遅れている。
 - 栽植密度はm²当り18株が確保されているが、茎数はやや少ない。
 - 葉色の発現が遅く、草丈、茎数とも初期生育の遅れがみられる。

3 病害虫の発生状況

- 6月15、21、24、27、29日にBLASTAMによる感染好適条件が発生しており、葉いもちの発生はやや多である。
- 山口市阿東で葉いもちの発生が報告されている。
- セジロウンカの発生は平年並みであり、一部の稲で産卵痕が確認されている。
- 6月27日に、コブノメイガの飛来が確認され、発生量はやや多の予想となっている。

4 今後の管理

- (1) コシヒカリ（5月上中旬植え）
- 5月上中旬植のコシヒカリは、7月10日前後から湛水管理時期に入ることから、中干しは7月第1半旬までに完了するとともに、特にm²当り茎数が300本前後の圃場では過度の中干しに注意する。
 - 長草化の傾向はやや軽減されたものの、依然として葉色が濃く軟弱な生育となっていることから、穂肥施用の場合は幼穂の状況、葉色を必ず確認して、無理な施用は避ける。
 - いもち病発生好適条件が発生していることから、ほ場の確認を行うとともに発生が確認された場合は、直ちに防除を行う。また、発生が無い場合も、出穂前の防除は必ず実施する。
- (2) ひとめぼれ（5月中下旬植え）
- 茎数が確保されたほ場では、中干しを徹底する。
 - 5月中下旬植のひとめぼれは、7月10～15日頃湛水管理時期に入ることから、移植時期に応じて計画的な中干しを実施する。
 - いもち病発生好適条件が発生していることから、ほ場の確認を行うとともに発生が確認された場合は、直ちに防除を行う。また、発生が無い場合も、出穂前の防除は必ず実施する。
- (3) 晴るる、きぬむすめ（5月下旬～6月上旬植え）
- 5月下旬植えは、間断灌水を実施するとともに、茎数が確保されたものから中干しに入るが、茎数の少ないほ場では、過度の中干しを避ける。
 - 6月上旬植えのものは間断灌水にを励行して、稲体の健全化を図る。

- (4) ヒノヒカリ（6月上旬植え）
- 間断灌水茎を励行して、茎数確保を図る。
- (5) ヒノヒカリ（6月中下旬植え）
- 浅水管理で茎数の確保を図るとともに、葉色の発現が遅く初期生育が緩慢なほ場では、除草剤処理後の止水期間終了御一旦落水して、稲体の健全化を図る。
- (6) その他
- ほ場に残っている補植用苗はいもち病の伝染原となるため、速やかに除去する。
 - 7月中旬までは曇りや雨の天候が続く予報であることから、本年水稻では特に加里肥料（珪酸加里）の施用が望ましい。

5 夏季の気象状況と高温障害対策について

- (1) 7月～9月の気象概況
- 気象台の予報では今夏も高温で推移することが予想されることから、平坦部のヒノヒカリを中心に白未熟粒発生による品質低下を防止する栽培管理を徹底する。
- (2) 高温障害による白未熟粒の発生要因
- 出穂後の高温
 - 出穂後10日間の平均気温が27.5℃以上、あるいは出穂後20日間の平均最低気温が22℃以上になると白未熟粒が発生しやすくなる。
 - 籾数過多
 - 登熟期間の栄養不足
 - 常時湛水や早期落水等による根の活力低下

◎福岡管区気象台による3か月予報（平成25年6月25日発表）

<予想される向こう3か月の天候>

この期間の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

7月 前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。後半は、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

8月 平年に比べ晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。

9月 天気は数日の周期で変わるでしょう。

以下 一部省略

- (3) 栽培管理の留意点

◎水管理の徹底

- 湛水管理時期前については前述のとおり。特に本年のヒノヒカリについては、初期生育が緩慢であることから、浅水管理、間断灌水を徹底して必要茎数の確保を図ることで、一穂籾数の過多を防ぐ。
- 湛水管理終了後も間断灌水を継続して根の活力維持を図るとともに、早期落水を防止するため必要茎数の確保された稲は中干しを確実に進行。
- 登熟期間中が高温で推移する場合は、夜間かけ流しを行い、根の活力を維持する。

◎施肥管理

- 籾数過多を防止するため、また本年水稻は軟弱な生育が多いことから、過度の穂肥施用は避ける。
- 緩効性肥料を施用したヒノヒカリについては、最高分けつ期以降の葉色の推移に留意し、葉色低下が激しい場合は追肥を行う。

(参考)

◎調査ほ場水稻の生育状況



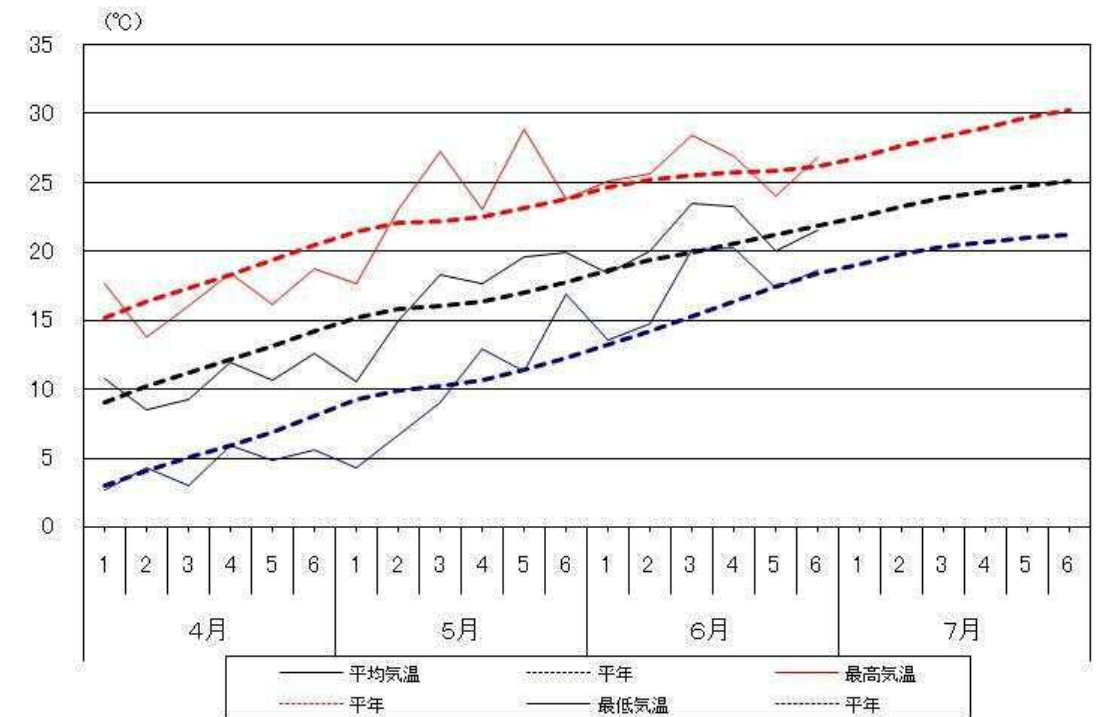
周南市 須々万本郷
 「ひとめぼれ」 (7月1日)
 田植え：5月20日 葉令11.5
 草丈61.1cm 茎数34.2 本/株
 (471本/m²) 葉色4.5



周南市 鹿野 大潮「コシヒカリ」 (7月1日)
 田植え：5月13日 葉令10.8
 草丈 58.2cm 茎数24.9本/株(465本/m²)

◎ 2013年度稲作期間の気象

(1) 阿東気象概況 (気温)



(2) 阿東気象概況 (降水量・日照時間)

